



令和2年度第3回広島市教科用図書採択審議会会議録

署名者 長谷川 洋 

会議録調整者 佐々木 沙智 

令和2年7月17日午後1時00分 令和2年度第3回教科用図書採択審議会を広島市教育センター1階第1研修室において開催した。

1 開会及び閉会に関する事項

開会 午後1時00分

閉会 午後4時30分

2 出席委員

会 長	長谷川 洋	副 会 長	角崎 真由美
委 員	面崎 敬子	委 員	望月 慶輔
委 員	斎藤 謙介	委 員	小林 綾子
委 員	西村 加奈子	委 員	小田 啓史
委 員	水津 直樹	委 員	今村 綾子
委 員	堀 未奈	委 員	藤田 智行
委 員	中田 浩二	委 員	三原 正弘
委 員	渡辺 智恵	委 員	山田 浩之

3 事務局の出席者

松浦 泰博 指導第二課長
土居 達司 指導第二課長補佐
与座 淳 指導第二課指導主事
佐々木 沙智 指導第二課指導主事
吉本 剛 指導第二課指導主事
山中 晴詞 指導第二課指導主事

4 議事日程

- (1) 教育長挨拶
- (2) 採択審議会委員の紹介
- (3) 会長、副会長選出
- (4) 諮問
- (5) 教科用図書採択制度及び本市の教科用図書採択についての説明
- (6) 議事
 - ・ 調査・研究の観点について
- (7) 諸連絡

5 議事の概要

○ 事務局

開会に先立ちまして、一言申し上げます。現在、本採択審議会の皆様、17名のうち16名の出席いただいております、3分の2以上の出席であることから、本採択審議会は成立することになります。なお、委員の皆様のうち、大槻委員からは欠席届が出されておりますので、お知らせしておきます。

本日お配りしております、資料等について確認をさせていただきます。お手元に資料1、資料2、また、審議時間の目安という表があろうかと思っております。前回同様、資料については会の最後に回収をさせていただきますので、どうぞ御協力をお願いいたします。

それでは、令和2年度広島市教科用図書採択審議会を開催いたします。これからの議事につきましては、会長、副会長に進めていただきたいと思います。長谷川会長、角崎副会長、よろしくお願いいたします。

○ 会長

それでは、皆さんよろしくお願いいたします。本日は、数学科、理科、音楽科、美術科の4教科5種目について審議をいたします。前回に続いてたくさんの教科書を審議することになりますので、どうぞ（審議が）適正に進みますよう、皆さんよろしくお願いいたします。

それでは、前回にならって進めていきたいと思っております。調査研究の報告を調査員の代表からさせていただきますので、数学の調査員、どうぞお入りください。

（数学の調査員代表者入室）

○ 会長

それでは、数学の教科書の調査・研究について、報告をお願いします。

○ 調査員代表

（調査報告）

○ 会長

はい。ありがとうございました。大変たくさんの資料を調査いただきました。今、ご報告いただきました内容について何か御質問等ございますか。もう一度、ここを説明してほしいというようなことでも良いです。

（質問なし）

○ 会長

よろしいですか。それでは御質問等ないので、ありがとうございました。この後審議を続けたいと思っておりますので、御退室をお願いいたします。

（調査員代表者退出）

○ 会長

それでは、7者について説明をいただきました。最初に、本市の実態や生徒の状況について説明をいただき、それに基づいて各者の特徴について説明いただきました。皆様、御覧いただき、特徴など御意見はいかがでしょう。

では、専門的な立場から、まずは印象等を含めて、どうでしょう。

○ 委員

はい。数学では、いきなり間違っているところを探すのではなく、どこが間違っているかというところを自分で考え、それを近くの人と話し合ってみようという言語活動や、なぜそれがそうなったのかという、過程のところを大事にすることは、必要だと思います。そういったことかというと、学校図書などは、「正しいかな」と問うことで、正しいかどうかというところから考えさせるところが良いのかなと思いました。東京書籍は、時期に合わせて身近な花見とか卒業ソングとか、そういった実際の興味・関心につながるような例をとってきているのも、子どもたちには取り掛かりやすいと思いました。どうしても数学は、現実世界とつながりにくいところがあるので、そういった身近なところから入っていけるというのは、導入として扱いやすいのかなと思いました。

○ 会長

今、お話になった、学校図書の正しいかどうか確かめてみようというところを見てみましょう。その後説明のあった、東京書籍の興味を持ちやすいというようなところはどのあたりにあるのでしょうか。

○ 委員

学校図書は80ページです。

○ 会長

80ページのどのあたりでしょう。

○ 委員

1年生の学校図書の80ページでいくと、下半分、真ん中よりちょっと下の辺に「正しいかな？」とあって、正しいかどうかを考えさせるような例になっているところです。それが色んなところにあり、84ページにもあります。そこでは、片方だけ約分みたいなことをしてしまって、そういった間違いは結構多いので、取り上げてであるとわかりやすいと思いますし、教える側も使いやすいと思います。

○ 会長

はい。ありがとうございました。その他に御意見等いかがですか。

○ 委員

どの教科書もとてもわかりやすく作ってあって、どれがよいか、なかなか難しいというのが印象です。ただ、今の間違いをどう扱うのかという話も、工夫がそれぞれ違っているように思います。小学校との連動制みたいなものは、東京書籍は0章というのが設けられており、かなり工夫されているなという印象です。

○ 会長

ありがとうございます。それでは、保護者の方にも、色々お尋ねしたいと思いますが、いかがですか、御覧になってみて。

○ 委員

はい。今、学校図書の3年生を見ているのですが、ページごとに「どんなことがわかったかな」というのが結構書かれていたり、その横には「次の課題へ」とあって、(そこに)次への課題と次のページ番号も書かれていたり、そこへつながるような形になっているのは、わかりやすいかなと思いました。

○ 会長

ありがとうございました。では、他にはいかがでしょうか。

○ 委員

はい。全体的な感想でいくと、先ほどの調査報告の中では、学校図書と東京書籍が、色々な特徴や工夫がたくさん見られるような報告があったかと思います。本市生徒の課題の中で、論理的に考えることに課題があるというのがありました。学校図書は、どのような見方・考え方を働かせたかを、課題解決の流れの図に添えて示していて、課題に対応しているものだというのが、特に特徴的だなと思いました。また、同じく東京書籍も、見方・考え方を働かせて、という部分があるので、それが特徴的かなと思いました。あと、ちょっと気になるのが、課題で正答率30%未満の生徒の割合が高く、基礎・基本の定着のための手立てが必要であるとありますが、個人的には、数学はちょっとつまずくといきなり授業が面白くなるのではないかなと思っていて、この30%未満の生徒の割合が高い部分を、学校図書は基礎基本となる問題にマークがついているという風にあるので、そういう生徒が教科書を見てどれからやればいいのかと思ったときに、そういうマークがついているのは助かるのではないかなと思いました。

○ 会長

ありがとうございます。ちなみに、そのマークは具体的にはどの辺りを御覧になってますか。

○ 委員

すみません。教科書では、まだ見つけられてないのですけど。

○ 事務局

補充問題のところなので、巻末の、1年生であれば283ページです。

○ 委員

番号の上に、緑色で薄く三角がしてある部分ですね。

○ 会長

なるほど。学校図書の283ページの、例えば、1年の復習というところの横に、薄緑色の三角があって、それは基礎・基本の問題ですよということですね。他に、いかがですか。

○ 委員

はい。関連したところで、ぜひお聞きしたいところがあります。学校図書の方は、基礎・基本の問題に三角、東京書籍の方は、難しい問題にということですよ。本市の生徒は、ど

ちらかというと、基礎・基本のところを大切にしないといけないということが課題なので、難しい問題の方についているのと、簡単な問題の方に印がついているのと、どちらの方が有益なんでしょうか。それと、基礎・基本を学んでいかないといけないというときに、特に、言語活動との関連ですけれども、実際問題として、言語活動に従事するような時間というのは、現実問題としてどのぐらい扱えるのかなというのがお聞きしたいです。教科書とちょっと違うのですが、素朴な疑問なので、そこのおところをお教えいただければと思います。

○ 委員

マークの方は、本当に個人的な意見ですけど、ちょっと苦手な子にとっては、パッと見て印がある問題だけ、とりあえず基本的な問題をやってみたらいいんだという風に取り組める方が取り組みやすいのかなと思いました。言語活動にどれぐらい取り組めるかというところは、最近、いろいろな先生の授業も見させてもらうこともありますが、それぞれが意識されている部分なので、テーマとしてこういう課題学習のような課題だけでなく、先ほどあったように、この中でどこが違うのかを話してみようとか、説明してみようとかいう形で、何らかの形で言語活動を取り入れようということは、多くの教員が取り組んでいるのではないかと思います。

○ 会長

はい。ありがとうございました。その他、いかがですかね。御覧になって、質問もありましたけれども、他の方にも御意見を伺ってみたいと思います。

○ 委員

そうですね。個人的に思ったのは、学校図書は、各章の終わりによくこれだけネタを集めたなと思いました。「役立つ数学」という欄があるのですが、今、3年生の42ページを開いているのですが、1章の最後の見開きのところに、因数分解で売り上げアップというところが目にとまっています。生徒からしてみれば、「因数分解ができるようになってどうなるの？」というところがやっぱりあるかなと思います。その中で、実生活の中だったらこういうところに生かされていてというのが、どの章にも何かしらのネタがちりばめられています。こういうところが、個人的にはよいと思います。2章のところだったら、キャラクターの縦と横が白銀比の形で書かれていて、大体そういうのが日本人には好まれやすいとかいうネタも書いていたりするので、こういったものを読んでおくのは生徒としても面白いのかなという印象は受けました。どの教科書も、一番後ろの巻末のページに載っていたりするんですけど、章の中にちょこちょこ入っていた方が教科書をペラペラめくっているときに見る機会が増えます。最後にまとめてあったら、よっぽど最後の方まで見る子でないと目につかなくなったりするのかなという印象は受けます。

○ 会長

ありがとうございました。7者ありまして、それぞれ、大変よく工夫されていると思いますが、その中でも特に特徴的なものをあげていただいています。その他いかがですか。

○ 副会長

私が興味を持ちましたのは、やはり実生活と数学がどう結びついていっているのかということで、私たちの時代には、こうしたことは全く教えていただかなかった中身ではないかな

と思います。しかも、学校図書の構成、先ほども言われましたけれども、実生活に役立つ数学ということで、題材を終えたあとに、さらに、「次の課題へ」というような、ちょっとした話合い、言語活動に結び付けていけるようなヒントがちりばめられているというところは、見ていてちょっとわくわくするような構成になっているなという風に感じました。

○ 会長

それは、どこの者でしょうか。

○ 副会長

学校図書ですね。水色の枠でマーク付きの、「次の課題へ」というところがとても印象に残っています。

○ 会長

はい。ありがとうございました。今、副会長がお話になったことと関連してなんですけども、調査報告の6ページのところの、観点4のマルの7ですね。そこを見ますと、広島に関する題材を扱い、写真を掲載している。実生活にどういう風な関連があるかというところから見ると、そういったところにも、学校図書や東京書籍、そして新興出版社啓林館の方には、そういった記述がありますので、こういったところは特徴かなと感じました。その他よろしいですかね。

(意見なし)

○ 会長

わかりました。それでは、これまでいただきました御意見を見て、観点1、2、5の3つ辺りの報告、あるいは皆様の議論、そして本市の生徒の実態、状況等を見たときに、まとめますと、よりふさわしいというものについては学校図書、それから、どの者もよくまとまっていますが、東京書籍の教科書をふさわしいということで答申するというようにしてよろしいですか。

(「異議なし」)

○ 会長

はい。また付すべき意見としてはいかがでしょうか。

(意見なし)

○ 会長

はい。わかりました。ではそのように進めさせていただきたいと思います。ありがとうございました。

では、続いて、理科の報告にいきたいと思います。

(理科の調査員代表者入室)

○ 会長

それでは、理科の審議に入りたいと思います。理科の調査員から理科の教科書の調査・研究について、報告をお願いします。

○ 調査員代表
(調査報告)

○ 会長
ありがとうございました。何か、説明に対して、御質問等ありますでしょうか。

○ 委員
質問してもよろしいでしょうか。資料1 1ページの観点2の③、東京書籍の上から2つ目に、「各章のはじめと終わりに『before & after』を位置づけ、その章を学ぶ前と後で、自分の考えがどのように変わったか、ふり返るようにしている。」と書いてありますが、具体的に、東京書籍のどのページなのかを教えてください。

○ 調査代表
1学年の東京書籍の教科書の13ページです。丁度真ん中の右のところに、『before & after』「たくさんの生物はどのように分類できるだろうか」という問いかけがあります。この後、26ページの中ほどのところに、『before & after』で「たくさんの生物はどのように分類できるだろうか」との問いかけがあります。当然、『before』のときには、学習前ですから、これまでの小学校での既習事項で、ある程度、子どもたちが判断するところですが、この章の学習を通して、最終的には、新しい学びを持って、「こういうことがわかった。」ということを実感させるような取り扱いになっています。

○ 委員
よくわかりました。ありがとうございました。

○ 会長
ありがとうございました。その他にありませんでしょうか。

○ 会長
それでは御退出ください。
(調査員代表者退出)

○ 会長
皆さんの意見を伺っていきたいと思います。いかがでしょうか。

○ 委員
よろしいですか。私の感想としては、どこの教科書もとてもわかりやすい上、探究的な活動、問題解決学習を取り組ませる工夫が充実していると思いました。特に、東京書籍は、課題の設定がわかりやすいように設定されていると思いました。啓林館は、「探Q実験」や「探Qクラブ」が設定されていて、生徒が、「ここで探究するんだな」とわかりやすいように工夫されているなどと思いました。

また、啓林館は、広島というか今の日本の災害について、一番深く触れており、今子どもたちが学んでおくべきことの情報が多く含まれていたため、啓林館の災害に関する部分は、子どもたちにとって、とてもよい学習になるであろうと思いました。

それから、どの発行者の教科書もですが、巻末に練習問題等を設定している発行者が、現行の教科書よりもかなり増えており、基礎・基本を定着させることに力を入れていることがわかります。特に、啓林館は、一番演習問題が多く、章末問題ですかね。各単元が終わった後に、「力だめし」のような問題が設定されているのも効果的であると思って見させていただきました。

○ 会長

はい。まずは、そういった所見をいただきました。その他の方にもお尋ねしたいと思えます。その他には、御覧になってみて、いかがですか。

○ 委員

はい。どの発行者の教科書もとても良くできていると思いますが、資料のとおり、やはり啓林館は、広島のことの特化していたり、「探Q実験」等で探究の過程がわかりやすくなっていたりと、本市の課題に対応している部分が多いと感じました。また、啓林館の教科書は、身近な生活に関連させている分が多く掲載されているとも感じられました。

○ 会長

ありがとうございました。他にはありませんか。

○ 委員

いいですか。先ほど質問で答えてもらっていた、東京書籍の『before & after』であるとか、啓林館の「学ぶ前にトライ」と「学んだ後にリトライ」というのが、学習前に子どもたちが何を学習するのかという見通しを立てて、学習後に身に付いた力を実感できるので、とても良い取組であると思いました。

○ 会長

ありがとうございます。その他にどうでしょうか。

○ 委員

よろしいでしょうか。ただいまの発言に加えまして、本市の生徒の状況は「基礎・基本の定着」というのが課題の一つで、重要な点だということですが、観点1の①の調査結果では、啓林館は、各章末、各単元末、各学年巻末に練習問題、更に、3年の巻末には3年間をまとめる形で「中学校総合問題」が設定されており、非常に丁寧なまとめになっているというのが、他の教科書とちょっと一線を画すところと考えます。

その他、それぞれの観点でも、啓林館の教科書は、やはり説明が丁寧であったりとか、広島のことを非常に丁寧に扱っていたりとか、そういう部分で、他者の教科書と少し一線を画しているという感じがしています。

○ 会長

ありがとうございました。その他に、いかがですか。

○ 委員

はい。どれも非常にわかりやすく、一人でも学習できるように工夫されていると思います。

特に、啓林館の教科書は、非常に綺麗に編集されており、ビジュアルを見てみると図鑑と間違える程に綺麗で、しかも、かなり詳細にわたって細かく記述がされていると思いました。啓林館の教科書は、これを見るだけでも色々楽しめるような、とても良いものであると思います。その一方で、少し詳しすぎる部分もあると言うか、先生方の使い方に幅ができるという印象を持ちました。

○ 会長

ありがとうございました。その他に、いかがですか。

○ 委員

私も、啓林館の「学びの見通し」と「学ぶ前にトライ」、「学んだ後にリトライ」という工夫も非常に良い工夫であると思うのですが、それに加えて、章の中にある、「部活ラボ」や「お料理ラボ」等のコラムを子どもたちが読むことで、今学んでいることが、日常に近い所でどう役立っているかというのがわかるので、非常に興味深いなと思いました。例えば、イオンの学習をしているところでは、スポーツドリンクが題材になっており、汗をかくとナトリウムイオンや塩化物イオンが体外に出ていくので、それらを含んでいるスポーツドリンクを飲むことによって補給できると書かれています。こういった題材を掲載することで、子どもたちは興味を持って教科書を見られるのではないかと思います。

○ 会長

ありがとうございました。その他にはいかがですか。

○ 委員

はい。やはり啓林館の教科書が、本市の課題に対応している部分が多くて工夫も多いかなと思いました。広島は、近年、大雨による災害が多い地域になっていますが、子どもたちから見ると、大雨警報は学校が臨時休校になる判断基準ぐらいにしか認識しておらず、各種警報や注意報の意味についてはあまり理解していない実態があると思います。しかし、広島市にとっては身近な出来事ともいえる自然災害について、深く学ぶことは重要でありますし、理科に興味を持たせるチャンスにもなるのかなと思っています。

また、東京書籍の教科書も、各節で問題発見、課題、結論の表現、活用の流れが徹底されており、子どもたちが学ぶ際に見通しを持ちやすいので、学習内容を理解しやすいことが特徴だと思います。

○ 会長

はい。ありがとうございました。その他には、いかがですか。

(意見なし)

○ 会長

それでは、しっかり意見もいただきました。その他には、よろしいですかね。それでは、冒頭にも調査のところで本市の状況で自然災害も発生しているとか、あるいは、基礎となる知識・技能の習得や、概念を活用しての分析、それから解釈することなど、そういったあたりの課題に対応しているということで、啓林館をよりふさわしいとすることでどうでしょうか。それから、東京書籍の方をふさわしいということで、答申をするということによろしい

でしょうか。
〔異議なし〕

- 会長
付す意見はなしということによろしいでしょうか。
(賛同の頷き)
- 会長
では、このように答申したいと思います。ありがとうございました。
- 会長
では、続いて、音楽の一般の審議に入りたいと思いますが、一旦この辺りで休憩を挟み、休憩後再開します。
(休憩)
- 会長
それでは、皆様お戻りのようですので、再開したいと思います。よろしくお願ひいたします。
(音楽(一般)の調査員代表者入室)
- 会長
それでは、音楽(一般)の教科書の調査・研究について、報告をお願いします。
- 調査員代表
(調査報告)
- 会長
はい。ありがとうございました。今の報告につきまして、何か質問はありますか。では、この後審議を続けますので、一旦ご退席をお願いします。
(調査員代表者退出)
- 会長
それでは、音楽については、2者で審議をさせていただきます。御意見いかがでしょうか。
- 委員
教科書を見る部分が、とても比較しやすく、それぞれの特徴を比べることができました。最後に開いていた言語活動の工夫のところも、それぞれ特徴があるように思いましたが、教育芸術社の方の、話し合うときに注目するポイントとして、速度や旋律といった要素が明示されていて、焦点化できるところに特徴があるなと思いました。
- 会長
ありがとうございました。その他、御意見いかがでしょうか。

○ 委員

今の点もですが、教育芸術社の、それぞれの教材の左側に、リズムとか速度とか旋律とか、音楽を構成している要素が記載されているところがいいですね。普通、歌や曲を学ぶときにはその教材だけに注目してしまうのですが、学んでほしい要素が明確に書かれていて、この教材でどういう学習をするのかといった、指針のような形になっているのが、教える側にとっても非常に、有益な情報ではないかと思います。

○ 会長

わかりました。その他いかがでしょうか。

○ 委員

はい。教育出版の方は、わりと簡単に楽譜と課題があげられている印象があつて、教育芸術社の方は、かなり具体的なところまで踏み込んでいるような印象を受けました。言語活動に関しても、話し合いをさせたり、あるいは鑑賞をさせたりといった工夫が見られると思いました。教育芸術社の方が、授業をやりやすいのかなという印象を持ちました。

○ 会長

はい。ありがとうございました。それでは、その他、いかがでしょうか。

○ 委員

はい。教育芸術社の、「深めよう音楽」の「パートの役割と重なり方」というページでは、ヒントが書かれていたり、注目するポイントとして、リズムや、音の重なり方、強弱など、着目するところが示されていたりするので、学習が困難な生徒も、わかりやすいなと思いました。

○ 会長

ありがとうございました。他にはいかがでしょうか。

○ 委員

私も全く同意見です。調査報告からは、どちらも課題に対応していて、特徴がわかりにくかったのですが、教科書そのものを見て判断すると、教育芸術社の方が、話し合うときのポイントが明確になっているなと思います。音楽は、苦手な生徒は苦手だと思うので、初めて見てもわかるような視点が示されていたらわかりやすいなと思いました。

○ 会長

はい。ありがとうございました。他にはいかがでしょうか。

○ 委員

はい。課題に対応したところで、教科書を比較すると、資料のわかりやすさや、具体的に話し合う視点が示されている教育芸術社さんの方が優れているかなという感想を持ちました。

○ 会長

ありがとうございました。改めて報告書を見ると、生徒一人一人が音楽を知覚したことや

感受したことを関連づけて、適切な言葉で表現するところに課題があるようです。こういった課題に対し、御意見があったように思います。皆さんの御意見を聞いて、その他、御意見はありませんか。

○ 委員

音楽に対して苦手意識を持つ生徒もいるので、考えやすいヒントがあるのは、教員にとっても、一つのポイントになるかなと思います。聴き取ったことや感じ取ったことを交流させるときに、着目点が示されているというのは、授業を進める上で助かると思います。

○ 会長

ポイントを絞って指導しやすい構成になっているということですね。色々御意見をいただき、教育芸術社を、よりふさわしい教科書、教育出版をふさわしい教科書ということで答申するというところでよろしいですか。

(「異議なし」)

○ 会長

それでは、意見について付すこともなく、このように答申したいと思います。

続いて、今度は器楽合奏の方の審議に入ります。お願いいたします。

(音楽(器楽合奏)の調査員代表者入室)

○ 会長

それでは、続いて、器楽合奏についての調査研究の報告をお願いいたします。

○ 調査員代表

(調査報告)

○ 会長

はい。ありがとうございました。それでは、丁寧に調査研究していただいています、報告の内容に御質問等ございますか。

(質問なし)

○ 会長

ありがとうございました。どうぞご退出ください。

(調査員代表者退出)

○ 会長

それでは、ただ今の報告について、御意見をお願いします。

○ 委員

はい。観点3の、鑑賞についてですが、教育出版は鑑賞した経験がある曲が4曲示されているのも、既習事項とつながっていいかなと思ったのですが、リコーダーと琴と三味線の3つの楽器だけだったのが少し残念でした。学校によっては、和楽器がなかなか数がそろわず、思うような授業が展開できない学校もあるので、学校の実態に応じて、楽器ごとに鑑賞曲が

2、3曲示してある教育芸術社が、その音色を聴けるきっかけとなり、いいのではないかと思います。

○ 会長

報告書の23ページを見ますと、教育芸術社は6つの種類の楽器について2、3曲示してある。各学校の事情に応じて色々と選択できるという趣旨のように思います。その他、御意見いかがでしょうか。

○ 委員

教育芸術社の方が「深めよう音楽」や、「楽器の図鑑」や、楽器の紹介の部分が、子どもたちにとってわかりやすいかなと思いました。言語活動を器楽の学習するのは難しいと思うのですが、「深めよう音楽」のページに示しているような活動を行うことで、子どもたちの言語活動も充実するのではないかなと思います。

○ 会長

はい。ありがとうございました。続いていかがでしょうか。

○ 委員

よろしいですか。教育出版の、一般の方で学習した曲の楽譜が載っているというあたりで、工夫が見られると思います。ただ、一般の方と同じで、教育芸術社の方が、詳しいというか、深いところまで記述があるような印象を受けます。子どもが楽器に親しむといたことを考えると、教育芸術社の方が、よりそういう機会を与えてくれるのではないかという印象を持ちました。

○ 会長

はい。ありがとうございました。続いて、いかがでしょうか。

○ 委員

観点2の「主体的に学習に取り組む工夫」が、教育芸術社の方が、教育出版と比べて、丁寧で、工夫がされているなという印象がありました。それから、教科書の内容に直接関係はないかもしれませんが、この器楽合奏は1年から3年生までずっと使うので、一般の教科書とセットでないといけないということはないでしょうけれど、1つの授業の中でもしかしたら一緒に使うようなこともあるのかなと考えられます。そうすると、一般の方が教育芸術社でしたので、教育芸術社の方が、工夫が見られましたので、一緒に使うセットとして、3年間使うという観点からも、教育芸術社の方になるのかなという気がしました。

○ 会長

はい。ありがとうございました。他にはいかがでしょうか。

○ 委員

必ずしもセットではなくて、分けて考える必要性はあると思いますが、保護者としては、教科書が来た時に、何で音楽と器楽で違うんだと、不思議に思ってしまう部分はあります。それは置いておきましても、教育芸術社の方が使いやすい気がします。リコーダーのQAが

いくつかあって、「高い音はどうやったら出せるんですか」とか「低い音はどうやったら出せるんですか」という部分が、できない子にとっては、ヒントになるように思いますし、後半の「アンサンブル」のところで楽曲ごとにポイントが示されているところも大切だなと思いました。

○ 会長

はい。ありがとうございます。続いて、どうぞ。

○ 委員

はい。この種目については、調査報告では比較が難しかったのですが、保護者として選ぶなら、教育芸術社の104、105ページの「楽器の図鑑」と、教育出版の巻頭の見開きの部分ですが、教育芸術社の方が、わかりやすく、いろいろな楽器が紹介されていて非常にわかりやすいなと思いました。本市の生徒が興味を示す音楽に偏りがあるという課題があるとのことでしたが、いろいろな楽器を知ること、いろいろな楽器に興味をもつことにつながるのではないかと思います。こういう細やかな配慮が、教育芸術社の方があるような気がしました。ここを見ただけでも、教育芸術社を勧めたいと思いました。

○ 会長

ありがとうございました。それでは、皆さんのこれまでの御意見をまとめましたところ、本市の教科書として、よりふさわしいものが教育芸術社、そしてふさわしい教科書が教育出版の教科書ということで答申し、付す意見はなしということでよろしいでしょうか。

(「異議なし」)

○ 会長

ありがとうございました。では、そのように答申したいと思います。

それでは、本日最後の審議に入りたいと思います。代表の方に入ってください。

(美術の調査員代表者入室)

○ 会長

それでは、美術の審議に入りたいと思います。膨大な資料を、丁寧に調査研究いただいております。まずは調査研究の報告について、お願いいたします。

○ 調査員代表

(調査報告)

○ 会長

はい。ありがとうございました。ただ今の調査研究に対して、何か御質問等ございますか。

(質問なし)

○ 会長

よろしいですかね。それでは、多岐にわたる調査研究、ありがとうございました。それではこの後審議を続けますので、ご退席ください。

(調査員代表者退出)

- 会長
それでは、今の調査研究の報告につきまして、御意見をいただきたいと思ひます。
- 委員
資料28ページの開隆堂出版の本のサイズのところがA4判と書かれていますのですが、今比べてところ、日本文教出版と同じサイズだったので、A4ワイド判というサイズになるのではないかと思ひます。
- 事務局
ありがとうございます。A4ワイド判に修正させていただきます。申し訳ございません。
- 会長
単純な表記の違いということで、お気付きありがとうございます。
- 委員
内容とは少し離れるのですが、A4サイズを超えると、かなり大きいなというのが第一印象です。印刷についてですが、日本文教出版の印刷が、かなり色が濃く見えて、印象が違ひがします。葛飾北斎の「富岳三十六景」という絵で比べています。
- 会長
それは、どこのページになりますか。
- 委員
日本文教出版の第2・3学年上の29ページです。それと、光村図書出版の第2・3学年の26ページに同じ図版が載っているのですが、見比べてみると、日本文教出版では空間にある泡の部分が写っていません。実際の現物を見ることができないのでわからないのですが、この印刷の違いが気になりました。
あとは、日本文教出版は第2・3学年の教科書が上下で2冊に分かれているので、先生の好みによると思ひます。どちらが使いやすいのかというのは、色々な考え方があると思ひます。個人的には、2冊に分かれている方が使いやすいです。
発想し構想することに関しては、光村図書の第2・3学年の76、77ページにある、発想を広げるといふところは、かなり詳しく載っているので、すごくいいと思ひました。
- 会長
調査研究の報告にもありましたが、光村図書の第2・3学年の76、77ページの発想・構想のところですね。その他、御意見いかがでしょうか。
- 委員
光村図書が非常に印象に残りました。特に観点2です。主体的に学習に取り組む工夫の③ですが、上から3つ目の「各題材を鑑賞・表現・鑑賞の流れで構成している」といふ部分ですが、鑑賞・表現だけでなく、そこからまた鑑賞に戻るといふことですよね。これが、非常に面白いと思ひます。次に、観点3の⑥です。発想し構想することに関する内容といふところで、「各題材を鑑賞・表現・鑑賞の流れで構成している」といふことが、発想することにも

つながっているというところです。それが非常に良い構成なのではないかなと思いました。それから、観点2の主体的に学習に取り組む工夫の③の、最後の晩餐のトレーシングペーパーのところ。トレーシングペーパーに書き込むことで、視覚だけではなく、手の感触とか、そういうものも感じられると思います。そういう活動を通じて、ただ目で見ただけではわからなかったものを感じて、更に深い学びにつながっていく可能性があると思いました。美術は、受け身ではなくて、自分で発想して構想することで作品を生み出していくというところが、他の教科と大きく違うところだと思います。だから、発想のところが非常に重要になると思います。先ほど話に出た、発想・構想のページ76、77ページも、どんな風に発想していくのかということが載っていて、これが言語活動にもつながっていくのだと思います。いろいろな活動が有機的につながっているなという印象があります。そういう意味で、光村図書の教科書は工夫があるのかなという風に思いました。

○ 会長

ありがとうございました。では、その他に、いかがでしょうか。

○ 委員

はい。今のお話にもありましたけれど、光村図書は、トレーシングペーパーだけではなくて、和紙とか、手触りの違う紙を使っているので、手触りで鑑賞するというのも可能だと思います。随所にそういう工夫が見られるので、生徒が美術により親しむような、美術を好きになるような、そういう工夫がされているということで、光村図書がいいのではないかと思います。

○ 会長

はい。ありがとうございました。先程の話に出た和紙は、1年生の教科書にあるものですね。

○ 委員

2・3年生の方にもあります。

○ 会長

ありました。その他に、いかがでしょう。

○ 委員

よろしいですか。さっき言われたとおりだと思うのですが、光村図書の方が、鑑賞と表現とを繰り返し、もう一回鑑賞に戻っているということで良いと思います。「みんなの工夫」では、生徒の作品とか、中学生が制作している様子の写真やイラストとかも結構多くて、親しみが湧くかなと思いました。

○ 会長

はい。ありがとうございます。他にはいかがですか。

○ 委員

はい。調査員の方から、観点3の⑥、発想し構想することに関する内容は、本市の生徒の

課題対応のために設けた項目であるというお話があったので、ここを重要視したいと思っています。その項目で3者を比較すると、光村図書が、発想を広げるというところで、工夫がたくさんされているなどと思います。実際に教科書を見て、2・3年の76、77ページを見ると、発想・構想や、話し合う際の方法・手順が、具体的に書かれていますので、中学生にとっても分かりやすい内容になっているのかなと思いました。

○ 会長

はい。ありがとうございました。光村図書の発想を広げるページでは、話し合う際の方法や手順にまで触れていて、観点5の言語活動の充実にもつながっていきそうですね。その他、御意見いかがでしょうか。今、光村図書についての特徴を言っていたく御意見が多いようですが、その他の2者についての特徴もいかがでしょうか。

○ 副会長

皆様の御意見を伺うと、光村図書の方が、今の時点ではよりふさわしいということになると思うのですが、次にふさわしいのはどの者かとなったときに、残りの2者の比較が、難しいかと思います。日本文教出版の方は、生徒の作品例がたくさん載っているのではないかと思います。

○ 委員

どちらがいいのかという話になると、発想し構想することに関する内容という項目を、課題対応のために新しく設けたということだったので、その項目で見てみました。日本文教出版は、第1学年の58、59ページで、発想・構想の手立てというページを設けています。これは、もう一方の開隆堂出版にはない特徴ですので、もし甲乙つけがたいということであれば、ここを見るというのも一つの手かなと思います。

○ 会長

はい。ありがとうございます。生徒の作品というのは、「あなたの美を見つけて」ですかね。どこにありますか。

○ 委員

第2・3学年上の6、7ページです。

○ 会長

6、7ページですね。生徒の作品例が充実していること、それから、今、お話しいただいたような、発想・構想の手立てのところがポイントでしょうか。

○ 委員

調査報告書の28ページに、観点3の⑥がありますけど、光村図書と日本文教出版には、5つ目の○があって、それぞれ発想を広げるとか、発想・構想の手立てを設けているというところですよ。

○ 会長

はい。わかりました。その他、特徴等を見ていただきまして、御意見等ございますか。

はい。それではありがとうございました。今、色々と見ていただきましたので、各者の特徴等がわかってきたかと思えます。御意見を総合しますと、本市の教科書としてよりふさわしいのは光村図書、そしてふさわしいのは日本文教出版ということで、意見等はよろしいですか。では、この2者について答申するというにさせていただきますと思います。

では、本日の審議をまとめまして、教育委員会に答申するというでございます。前回もそうしましたけれども、これまで賛同の声をいただいておりますが、規則第6条に基づきまして、過半数で決するというでございますので、皆様、この答申でよろしければ、挙手をよろしく願いいたします。

(全員挙手)

○ 会長

全員に挙手いただきましたので、可決いたしました。それでは、本日、教育委員会から諮問されました教科書の調査研究につきましては、慎重に審議を行った結果について、答申をします。以後は、会長の責任におきまして、事務局との間で事務手続きを行いたいと思いますが、一任いただけますでしょうか。

(「異議なし」)

○ 会長

はい。ありがとうございます。それでは、これで本日の全ての審議を終了いたします。委員の皆さんの御協力で、本日の広島市の教科書採択について、公正かつ適正に審議し、教育委員会へ答申することができそうでございます。皆様、ご多用中、本当に御協力ありがとうございました。

○ 事務局

委員の皆様、ありがとうございました。最後に、指導第二課長より一言ご挨拶させていただきます。

(課長挨拶)

○ 事務局

事務局から何点かご連絡させていただきます。

(事務局連絡)

○ 事務局

夏のこの暑い時期、しかも、大変お忙しい中、長時間の審議ありがとうございました。今日は以上でございます。

(全日程終了)